参考資料５

モニタリングサイト1000里地調査

生物多様性指標レポート 2012

里山の生きものたちからのメッセージ

生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

３． 生態系の連続性

指標：哺乳類の指標種 5 種の撮影頻度

かつて全国で普通に見られたキツネやイタチ類が確認できない、もしくは非常に少ないサイトがあった。そのような場所では既に生態系の連続性が失われている可能性がある。

連続した生態系を必要とする生物の指標種として、かつて全国の里山に普通に見られた哺乳類 5 種（ノウサギ・アナグマ・テン・イタチ類・キツネ）に注目した。調査の結果からは、既にキツネやイタチが確認できない（図 3-7）、もしくは撮影頻度が非常に低い調査サイトが認められ、特に関東など都市近郊では 5 種のうち 1 種しか撮影できないというサイトも多かった（図 3-8）。このようなサイトでは既に生態系の連続性が十分でなくなっている可能性が高い。

それぞれの種の経年変化の全国傾向（図 3-9）については、サイトや年による増減も様々でばらつきも大きく、今のところ不明である。今後も都市近郊のサイトで指標種の減少が生じるのかなどに注視していく必要がある。

なお、近年全国で個体数の増大やそれによる生態系への影響が懸念されているイノシシとニホンジカについては、調査年数や撮影できるサイトが少ないこともあり経年的な全国傾向は今のところ不明であった。しかし、福井県のコアサイトのように確実に増加傾向にあるサイトがある（図 3-10）ことや、例えば大阪府枚方市・埼玉県鳩山町でのイノシシの確認や大分県竹田市・九重町でのニホンジカの確認など、調査開始後に新たな侵入が確認されたサイトがあることなどは、全国的な分布拡大を反映しているものと思われる。

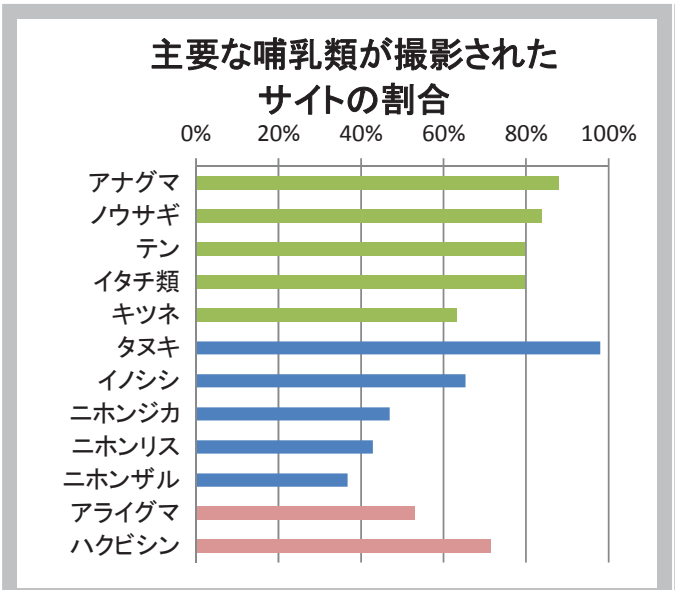

図 3-7：全国の調査サイト(49 ヶ所)における主要な哺乳類の撮影割合。2011 年までの全調査結果を含む。

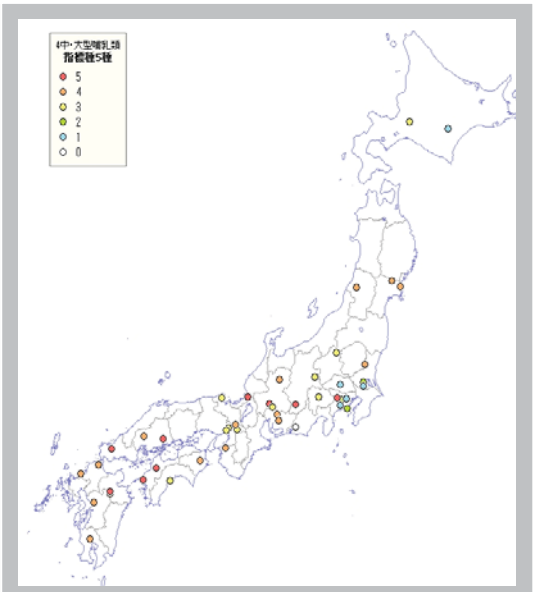

図 3-8：全国の哺乳類調査サイトの位置と、これまでの調査で撮影できた指標 5 種の種数。

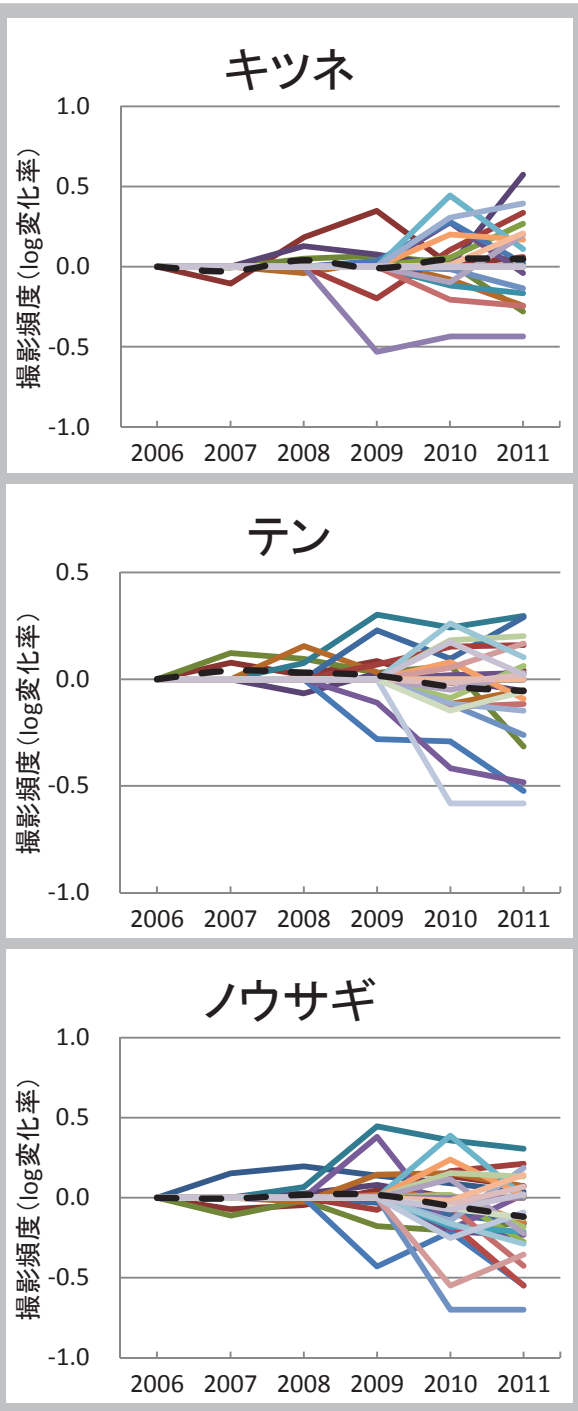

図 3-9：指標種５種の撮影頻度（個体/日）の経年変化の全国傾向。各サイトの撮影頻度の初年度の値を基準としたときの対数変化率を求め、それを各年で平均した。カラーの折れ線は各サイトの変化、黒色の点線はその全国平均を表す。指標種が一度も撮影されていないサイトは除外した。

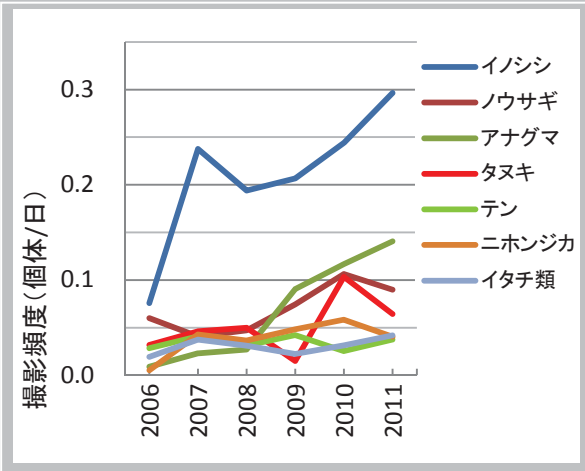

図 3-10：福井県のコアサイト中池見湿地における主要７種の撮影頻度の経年変化。